



カーシェアリングの推進について

グループ名：Roop the Loop

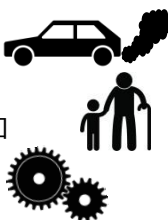
メンバー：前川幸宏・浅井文崇・滝良太

チューター：小林敬幸・神本祐樹・栗本宗明

現状の把握

2035年 なりゆきの姿

- ◆ 環境性も効率性も伸び悩む車社会
 - ・低い稼働率と次世代車の普及伸び悩み
- ◆ 車に関わる交通弱者問題の拡大
 - ・経済的・身体的に車を利用できない層の増加
- ◆ 技術革新サイクルの停滞
 - ・低価格志向の進展に伴う先進技術開発



2035年に向けた課題

技術革新の加速を通じた、
環境性・効率性・安全性の高い自動車社会構築

2035年に向けての提言の概要

エンドユーザー間カーシェアリングの推進

◆「シェアカー制度」新規発足

- ・自動車所有の形を変える制度。車両を登録する際、カーシェアポータルに登録される代わりに自動車税を免除。

◆「カーシェアポータル」開設

- ・ユーザーが貸し手にも借り手にもなるポータルサイト。車を使わない時間帯を登録し、借りたい人がWEB上で利用予約。

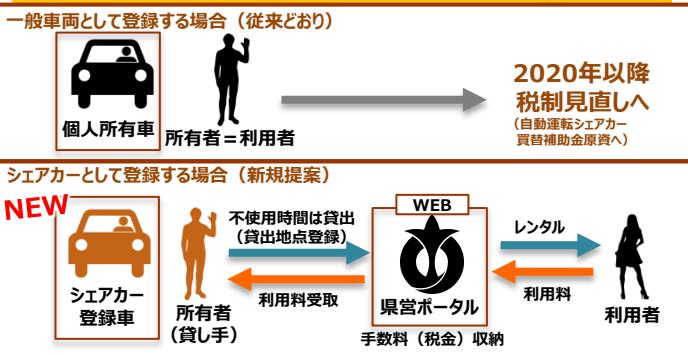
◆「車両の技術革新」を促進

- ・自動車一台あたりの稼働率・走行距離を伸ばすことで、車両の買替サイクルを加速。次世代自動車開発を活性化。

「次世代自動車」「シェアに使える車」を同時に普及

提案の内容

車両の所有スタイルに新たな選択肢



シェアカー制度が車の貸し手を増加させ、ポータルが貸したい人・借りたい人をマッチング

車の稼働率が向上し、自動車市場の買替サイクルが加速。モデルチェンジと技術革新の促進へ

具体的な取り組みと実現可能性

必要な取り組み内容

- ◆ 県営ポータルサイトの開設
 - ・シェアカー仲介機能 + 税金収納・利用料受払機能
- ◆ 法・条例等の制度面の整備

試算メリット

- ◆ 貸し手は、賃料収入により早いスパンで乗換可能
 - ・34万円/年程度回収（非自動運転車・土日貸出の場合）
- ◆ 借り手は、所有するより安く自動車を利用可能
 - ・年間メリットは対所有62万円、対既存カーシェア50万円

2035年に達成される効果（愛知県内）

| | なりゆきの姿 | 達成する姿 |
|-------------|--------|----------------------------|
| シェアカー台数 | 13万台程度 | 258万台 (ストック比60%・人口比36%) |
| 乗用車稼働率 | 4.8% | 9.6% |
| 次世代自動車ストック比 | 40% | 70% |
| 自動車CO2排出量 | - | マイナス26% |
| 自動運転車普及率 | 25% | 50% |

波及効果

自動車交通において国内最先端を歩む愛知県へ

◆ 交通事故・渋滞の大幅な減少

- ・自動運転車普及率50%達成・ITSの活用推進

◆ 自動車産業のさらなる発展

- ・次世代自動車の開発・普及のさらなる促進

◆ CO2排出量減少

- ・FCV, EV, PHV等の普及加速で自動車部門の排出▲26%達成

◆ 交通弱者問題の緩和

- ・自動運転による乗捨て・配車でシェアリングが誰にも気軽な存在に